

【学力等に関する目標】

- 「全国学力・学習状況調査」正答率40%未満の児童の割合を5%以下にする。(国語・算数)
- 「全国学力・学習状況調査」平均正答率を県平均+2以上にする。(国語・算数)
- 「標準学力調査」の正答率 40%未満の児童の割合を5%以下にする。(国語・算数・理科)
- 「標準学力調査」の平均正答率を全国平均+2以上にする。(国語・算数・理科)
- 単元末テストにおける目標点以上の児童の割合を、1～4年80点以上 80%, 5・6年 75 点以上 70%にする。(国語・算数)

【重点取組表】

全校で取り組む内容	
	<p>【授業改善・学びの習慣づくり】</p> <p>○ORPDCサイクルによる授業改善を推進する。</p> <p>【授業改善】効果的な関わり合いの中で表現力の向上を図る。</p> <p>○「課題発見・解決学習」を通して主体的な学びを育む。「せらにし授業スタイル」を実践し、教材との関わり、自己との関わり、他者との関わりを通して、表現力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考のツールを活用し、「自分の考えをもたせる場面」の工夫を行う。(視覚化・焦点化) ・「学び合い・伝え合う場面」の工夫を行う。(視覚化・焦点化・共有化) ・思考を深めるための発問の工夫を行う。 <p>○ 個に応じた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画」を作成し、視覚化・焦点化・共有化の視点を取り入れた指導の工夫を行う。 <p>【学びの習慣づくり】語彙力の向上に向けた取組を図る。</p> <p>○ 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班読み聞かせ会の工夫（1年～6年までによる読み聞かせ）感想の意見発表の工夫 ・保護者参加の読み聞かせ会の工夫（保護者を巻き込んだ意見発表の工夫） ・せらにし学区での「せらにし家族の日」の取組（保・小・中連携） <p>○ 朝・帯タイムの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩・古典の朗読 ・つばきタイム（計算・読み取り・eラーニング・英語） ・さよならタイム（計算・漢字） <p>○ 家庭学習の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取組—自主学習の手引きを配付 （低学年「おしえてプリント」〔ことばのプリント〕・高学年「よみかき新聞」〔新聞を活用した意見文〕の工夫） <p>○ 辞書の活用（全学年）</p>
各学年における具体的取組内容	
高 学	<p>【授業改善】効果的な関わり合いの中で表現力の向上を図る。</p> <p>○思考のツールを活用し、「自分の考えをもたせる場面」の工夫を行う。(視覚化・焦点化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題のイメージを意識する。

年	<p>→簡単な図や線分図，数直線に表すことで，数量関係を把握し，問題をイメージすることができる。</p> <p>○「学び合い・伝え合う場面」の工夫を行う。（視覚化・焦点化・共有化）</p> <p>○思考を深めるための発問の工夫を行う。</p> <p>【学びの習慣づくり】語彙力の向上に向けた取組を図る。</p> <p>○ 家庭学習 内容【国語・算数・音読・リコーダー・柔軟運動・自主学習（新聞を活用した意見文）】 時間【5年生は50分以上，6年生は60分以上】</p> <p>○音読・辞書の活用・読書・表現力の育成（読み聞かせ・お礼の手紙・学習の振り返り）</p>
中 学 年	<p>【授業改善】効果的な関わり合いの中で表現力の向上を図る。</p> <p>○思考のツールを活用し，「自分の考えをもたせる場面」の工夫を行う。（視覚化・焦点化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵や図やグラフを用いて説明させる。 →液量図，線分図，数直線の活用。 ・ テープ図から線分図へ。 →線分図を活用して，考えたり説明したりさせる。 <p>○「学び合い・伝え合う場面」の工夫を行う。（視覚化・焦点化・共有化）</p> <p>○思考を深めるための発問の工夫を行う。</p> <p>【学びの習慣づくり】語彙力の向上に向けた取組を図る。</p> <p>○家庭学習 ・ 内容【国語・算数・音読・リコーダー・柔軟運動・自主学習（新聞を活用した意見文）】 ・ 時間（40分以上）</p> <p>○音読・辞書の活用・読書・表現力の育成（読み聞かせ・お礼の手紙・学習の振り返り）</p>
低 学 年	<p>【授業改善】効果的な関わり合いの中で表現力の向上を図る。</p> <p>○思考のツールを活用し，「自分の考えをもたせる場面」の工夫を行う。（視覚化・焦点化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題場面のイメージをもたせる。 →場面絵を提示し，イメージをもたせてから問題文を提示する。 ・ 半具体の操作をもとに，絵や図や言葉で表させる。 →操作活動を大事にしながら，それを絵や図で表現させることで，思考過程を残す。また，○ 図などで表すことで「簡単に描ける」「分かりやすい」などの良さを低学年のうちに実感させる。 具体物⇔半具体物⇔抽象 ・ ○図からテープ図へ →演算決定が簡単になるという良さを味わわせる。 <p>○「学び合い・伝え合う場面」の工夫を行う。（視覚化・焦点化・共有化）</p> <p>○思考を深めるための発問の工夫を行う。</p> <p>【学びの習慣づくり】語彙力の向上に向けた取組を図る。</p> <p>○家庭学習 ・ 内容【国語・算数・音読・柔軟運動・自主学習「おしえてプリント」（ことばのプリント）】 ・ 時間（30分以上）</p> <p>○音読・辞書の活用（1年3学期）・読書・表現力の育成（読み聞かせ・お礼の手紙・学習の振り返り）</p>

